

コロナワクチンに思うこと

国立病院機構名古屋医療センター

永井 宏和

2021年も夏になりましたが、未だCOVID19感染禍は収まるところを知りません。小さな波、大きなうねりを繰り返しながら、私たちの生活に影響を深く与えています。最初はカウンターパンチのようでしたが、今ではボディーブローのようにダメージを与え続けています。短期的には、目の前の患者さんの治療、行動制限によるパンデミックを抑え込みに日々精一杯の努力を注ぎ込む以外ないのですが、コロナワクチンは私たちに中期的な道標を示してくれました。インフルエンザワクチンなどこれまでのワクチンとは比較にならない感染阻止効果があります。ワクチン開発者たちもその臨床研究結果を見た時には極めて大きな驚きだったようで、その瞬間は天にも昇るような気持だったそうです。人類の運命が掛かっている臨床第3相試験結果を最初に見るときのone clickはどれほどの緊張があったか想像もできません。

国立病院機構はコミナティの先行接種研究をはじめ、コロナワクチン接種に対する貢献は大です。私は名古屋医療センターで勤務していますが、2月から現在まで間断なく医療関係者、エッセンシャルワーカーにワクチン接種を行っています。モデルナ社製のワクチンの研究も開始されました。2つのワクチンが使えるようになり、日本での接種は急速に進捗しています。一日100万とは言わず200万接種くらいを目指したいところです。

愛知県でもモデルナワクチンの接種が開始され、大規模接種会場も機能しています。先日、助っ人として、県営名古屋空港で行われている大規模接種のお手伝いをしたところです。1日2000人接種を行って

おり、極めて広いスペースで効率よく対象者が接種を受けることができるように工夫されていました。運営会社もしっかり入っており、相当の準備がされたと思いますが、毎日のbriefingとdebriefingをはじめとした全体会議や職域毎の会議で問題点を洗い出し、即日解決していくシステムで日々改善しているようです。今後のさらなる接種者の増加にも対応が可能であろうと感じました。私は一問診医として参加したのですが、幾つか感じたことがありました。大規模接種会場では、住民は全く知らないスタッフに囲まれ5以上のステップを経て接種を完了します。接種会場に到着し最初に話をする医療者は問診医です。問診を行うことが第一義ですが、接種会場に来場した方の疑問に答え、少しでもリラックスさせることも役割の一つです。皆さん不安で一杯で、予想以上に緊張しているようです。また、いかに多くの高齢者が医療機関でお薬をもらっているかで、病院で診療をしている時には、あまり気にならなかったのですが、私が問診をした方(65歳以上)の2/3以上が、高血圧や糖尿病など何らかの治療薬を服用しており、お薬手帳を見せていただくと6剤以上のポリファーマシーも珍しくありません。お薬を飲んでいない方には「お元気ですね」と声をかけたくなるくらいです。必要があってのお薬ですが、日本の高齢者医療のリアルワールドの一端を垣間見た感じです。

ワクチン開発・実施では出遅れた感が強い我が国ですが、ワクチン接種が予定を超えたスピードで進み、少しでも早く集団免疫なるものを獲得したいものです。